

扶桑菅廟最初

防府天満宮

佐加太利とは御鎮座地天神山の古来名「酒垂山」からとったものです

佐加太利

令和7年
秋冬号

116号



目次

1 点描／大小行司夜々詣
夜々詣：御神幸大祭（裸坊祭）八日
前より大小行司が隔日で夜詣りし
大祭の無事斎行を祈る。初日は大
行司以下お供の行列を鳥居前にて
お祓いし、神職の先導により参進
する。（社務所日より参照）

2 巻頭言

3 崇敬会だより

5・4 こころのふるさと
防府天満宮
～金谷神社（金谷天満宮）の
秋季大祭調査を通して～

7・6 寄稿
金銅宝塔が物語るもの

8 御神忌
千百二十五年式年大祭
記念事業進捗状況

9 TOPICS
結婚おめでとう
ひたぶる

11・10 社務所だより
天神様の夏から秋の日誌抄々

12 予祝詣・初詣
これからの祭事行事案内



第六巻 9m20cm

第五巻 13m31cm

第四巻 12m12cm

第三巻 13m80cm

第二巻 14m30cm

第一巻 13m10cm



雑感

宮司 鈴木宏明


近頃、テレビや新聞のニュースに分断とか差別といった物事の二極化を表す「ワード」がよく登場します。要因として宗教、政治経済や民族、そして身近なところでは男女といったことに端を発することが多いようです。それゆえ異文化の目には、^レ女人禁制^クといった風習のある神社の祭りが、その「ワード」に重なって映るのではないかと心配しています。

先日、外国人旅行者を案内する方から「防府天満宮の御神幸祭はなぜ「裸」で奉仕をするのですか？なぜ男性だけなのですか？」と質問を受けた…とメールを頂きました。

御神幸祭は一〇〇四年創始以来防府天満宮最大の重儀で、限られた家柄の者しか参加できませんでした。ところが江戸時代後期になると天神信仰が高まり、一般民衆も御神幸祭に参加したいという波が起きました。これに対し藩は佐波川で潔斎をして身を清めることを条件に参加を許し、人々はその証として潔斎したそのままの姿「裸」で参加するようになりました。裸坊の出現です！しかし女性は裸にはなれません。さらに天神信仰の興隆と共に御神幸祭は荒祭りとなり、女性は参加どころか見物さえ憚るようになりました。ですから「決して女性蔑視に由来するものではありません」と付け加え返信すると「なるほど…」とご理解頂きました。

古来日本では祭事において女性は不浄といわれ禁制がありました。しかし不浄とは汚いということではなく、赤不浄は月のもの白不浄は出産をさし、体内から血液が出てしまうことで怪我や気枯れに繋がり、命に関わる事象と捉えていました。全てにおいて生々発展を願う日本の祭りでは、女性は人々に恵みを与えてくれるが時に災害をもたらす脅威となる大自然と同じように、畏敬の対象でありました。ですから女性を「命の源」と神聖視してきました。その証拠に古事記に登場する最高神である天照大御神様は女性神です。と追いメールすると更に納得いただけました。

今では御神幸祭においても女性の活躍の場として「天神おんな神輿」があります。また最近では祭りの担い手として男女を問わず外国人が自発的に参加し、コミュニティの一員として地域文化に溶け込んでいます。私はその姿を見るにつけ、神社の祭りにこそ「ワード」の解決への近道があるのではないかと感じています。

※本ページの天地に掲載した（重文）松崎天神縁起絵巻は、全六巻計約 75 メートルにおよびます。本号ではその  の部分を紹介しています。

※本号をもちまして平成 29 年 100 号より 17 回にわたり掲載してきました本コーナーは終了です。

次号からは「松崎天神縁起絵巻」以外の防府天満宮を代表する宝物をご紹介します。

第六巻 9m20cm

第五巻 13m31cm

第四巻 12m12cm

第三巻 13m80cm

第二巻 14m30cm

第一巻 13m10cm



崇敬会だより

「第四回東京支部総会・交流会」開催

東京支部総会・交流会が十月十八日にハリウッド美容専門学校（港区六本木）に於いて開催されました。

まず、崇敬会東京支部の繁栄祈願祭が斎行されたのち、記念講演が行われました。今回の講演では、初代内閣総理大臣の伊藤博文を曾祖父にもつ伊藤弥寿彦先生（生物研究家）により「古事記の花鳥風月」と題してご講演をいただきました。

伊藤先生は、わが国最古の歴史書である「古事記」に登



▲東京支部総会参加者

場する動物・植物・鉱物を丹念に調査撮影し、その調査内容を千点以上の写真付きの書籍（写真①）として刊行されました。

講演は「皆さん、古事記の中で一番最初に出てくる動物はなにかご存じでしょうか。実は久羅下（くらげ）なのです」という言葉から始まりました。「私の調査の結果、古事記内に出てくる久羅下は、おそらくミズクラゲではないかと思います」と述べられ、水中カメラマンでもある自身が東京湾に潜って実際に採集なさったエピソードを紹介されました。

また「因幡の白兔に登場する兔は、ニホンウサギという種類だったと考えています」と述べられるなど、現代の私たちにも身近な動物が、神代の昔より存在していることとの説明がなされました。先生の軽妙な語り口に、参加者は傾きながら聞き入っていました。

この講演を通して先生は「古事記は単に神話や古いお伽話として捉えられがちであるが、そこに登場する生物などを細かく研究・解明することで、今の私たちの目にもその生物たちが具体的に映り、古事記がよりリアルに興味深く楽しめる書物となっていく」ことを紹介くださいました。



▲自然番組ディレクターとしても名高い伊藤弥寿彦先生。NHK『生きものの地球紀行』『ダーウィンが来た!』シリーズ他、『明治神宮 不思議の森』『南極大紀行』『プラネットアース』『伊勢神宮 光ふる悠久の森に命がめぐる』など作品多数。

講演会後に行われた交流会では伊藤先生との交流も活発に行われ、参加者は山口市の地酒とともに食事をとりつつ、互いの親交を深めました。

来年は、東京支部設立五周年にあたります。より一層防府天満宮そして山口市を身近に感じ、心のふるさと「防府天満宮」となるようつとめていきたいと思っています。その上で、関東近郊にお住いの会員とのお知り合いの方にも広くご案内申し上げ、ますますの支部繁栄に向けて進んでいきたいと考えています。

写真①



▲本年6月に世界文化社より出版された400頁を超える大著。全3巻から構成される古事記のうち、上巻に登場する動物・植物・鉱物が紹介されています。

新規会員紹介

本年五月一日以降入会者（順不同。敬称略）

永年会員

中村 元彦

防府市緑町

法人会員

（株）ナカハラプリンテックス

下関市大和町

特別会員

小田村 直昌

東京都港区

家族会員

竹内 尚史

神奈川県横須賀市

小林 忠

山口市阿知須

徳永 亨仁

防府市岩島

徳野 裕子

東京都文京区

個人会員

平野 哲也

東京都杉並区

鈴木 祥太郎

防府市高井

前田 愛

山口市熊野町

崇敬会入会をご希望の方は、
同封の入会案内をご覧の上、

お申し込み頂きますようお願い申し上げます。

「ごろのふるさと」 防府天満宮

「金谷天満宮秋季大祭調査を通して」

はじめに

金谷神社（通称…金谷天満宮）は『防長寺社由来』に長門国第三宮であった旨が記されている。現在地へ遷座されるのは享保五年（一七二〇）のこと。江戸時代には、神職は置かれず、僧侶により神事、運営が司られ、催事など執行許可の願い出が出されている。明治の神仏分離令により社坊は廃寺、



▲秋季大祭当日の金谷神社（金谷天満宮）御社殿
金谷天満宮は萩市大字椿2794に鎮座。社伝によると文治二年（1186）に長門守護佐々木高綱が太宰府天満宮より勧請し、現在の御旅所（通称：古天神）に創建されたという。

明治六年（一八七三）に金谷神社へと改称、氏子を持たない崇敬神社として椿八幡宮の氏子地域に鎮座している。

① 崇敬された天満宮

江戸時代、萩城下町の表玄関にあたる金谷天満宮の宮前には大木戸が設けられ番所が置かれていた。日暮れから夜明けまで治安維持のため城下への出入りを監視する重要な場所であり、金谷天満宮は藩の鎮守としての位置づけがあったのではないか。

『防長風土注進案』には二代藩主の毛利綱広より木材が供出され御殿の復旧がされたことや歴代藩主が江戸に参勤する際は代参が派遣されたこと、また防府の塩田などに赴く際には、必ず藩主が直接参拝したことが記されている。また維新の志士たちが萩往還を通る際は防府天満宮と金谷天満宮に参拝していたことも知られている。

更に萩城下町では火災や水害が多かったこともあり、一般には火難除け、水難除けの神様として

の信仰があり、藩主から一般市民に至るまで天神様への信仰も厚かったことが伺える。

② 資料に見える秋季大祭の祭典諸役



▲幕末の萩城下の金谷天満宮の祭礼を描いた『鷺輿巡幸図』

金谷天満宮は創建より八百年余りの歴史を持ち、天神信仰が隆盛する江戸時代は図画等多くの資料が存在する。その中に江戸時代末期の萩城下の寺社や風俗を木版画で表現した『八江萩名所図画』があり、そこに記された金谷天満宮の祭礼は防府天満宮と共通点が多く興味深い。祭礼日は十月十五日十六日、湯立神事も斎行されている。また「花神子」「大行司」「小行司」に倣ったお役目が過去に存在し

ていたことが記されている。

「馬に跨る大行司、小行司」は、大正年間の防長新聞の記事で散見される。

古萩町では大名行列の奉納のことを古くは「小行司の行列」と呼び、東浜崎町の旧町名である漁人町からも「大行司の行列」「小行司の行列」が出され、数十の槍、大・小行司、本丸籠そして備への行列で編成されていた(昭和十三年以降奉納なし)。他にも大正六年の新聞記事には「神輿は神牛に曳かれて」大神幣を従え大小行司供奉にて御旅所に至り云々」とあり、かつては御神幸にも大・小行司が加わり、防府天満宮と同様に神事に奉仕をしていたことが記されている。

いづれも大・小行司が行列の中心をなしているが、防府天満宮の大・小行司のように明確な役割があるかは不明である。

③現在の秋季大祭と奉納行列

金谷天満宮秋季大祭は現在十一月第二土曜日、日曜日に斎行される。初日には早朝より御網代車と御神輿の蔵出しが行われ、まず秋季大祭が斎行される。秋季大祭後には天神様の御霊が乗った御神輿が金谷天満宮を出発し、周辺地域を巡幸し、個人宅や事業所を回り、深夜に金谷天満宮へ還ってくる。

翌日には、各地区の奉納行列が執り行われる。途絶えてしまった時期もあるが、現在でも萩時代まつりの一部として受け継がれている。多くの町内の様々な組織によって繰り出され、昔から大変盛大な祭礼であったと言われている。各地区の奉

納行列らは、前日に代表者が金谷天満宮でお祓いを受け、御札と御久米をいただく。奉納の後、奉仕関係者へ配られる。夕刻には、天神様の御霊を御網代車に乗せ、前日に巡幸した御神輿と共に、秋季大祭が無事斎行されたことを報告するため、お旅所へ御神幸が執り行われる。四十年程前までは牛が曳いていたというが、現在では童神と呼ばれる稚児が御網代から伸びる縄を持ち、前を歩いている。



▲川島地区から繰り出される現在も江戸時代大家のあった川島聖講が天神様に火難除けの願いを込め、山口県内では珍しい聖(背負う形態の小さな山車)を奉納している。



▲金谷天満宮の御網代車

④むすびに考察

金谷天満宮の祭礼は天神様が二度神幸を行う特徴がある。これは過去に天満宮が何らかの理由で他の神様と合祀され、網代車に天神様、御神輿に他の神様を乗せて御神幸を行ったが、時代の変遷の中でまた分離独立し天神様だけが祀られ、その名残が現在の形になったのではないだろうか。

また太宰府・萩・防府の関係性について、日本海側は九州との交易が盛んであり、九州の文化が伝播する中で山陰側では太宰府天満宮から勧請された例が多い。しかし祭礼の内容については、毛利公が萩に築城し萩往還が整備されたことで、瀬戸内海側の防府天満宮の天神信仰が日本海側へ波及していったものと考えられる。

金銅宝塔が 物語るもの

寄稿

山本楼観

その輝きのなかにあるもの

府府天満宮宝物館の入り口からたどって左手の奥まった所に「金銅宝塔」は通常、展示されている。展示空間の主役としての役割は「松崎天神絵巻」に渡したかのように見えるが、時間を経ることで培われた渋い金色の輝きを放って、ただならぬ存在感を醸し出している。修理後補もあるが、全体に鍍金を施して仕上げた多宝塔形の銅製舍利容器で、円筒形の塔身と方形の屋根の上に相輪を立てた総高43・9センチの比較的コンパクトな大きさのものである。それだけに舍利塔としての形状のエッセンスを凝縮した造形となっていて、法具としての機能美を纏った印象深いシルエットが心に留まる。塔身に銘文が陰刻され、そのなかに承安二年（一二七二年）の紀年銘があ

り、その年に天満宮に奉納されたことがわかる。平安時代末期にさしかかる頃にあたるが、この頃から鎌倉時代にかけて舍利信仰が盛んとなり、「金銅宝塔」はこうした信仰の社会的な大きな流行のなかで製作されたものである。全国的に平安時代の残存作例が少ない宝塔の中で実年代がわかる大変貴重なものとして国指定重要文化財となっている。多宝塔の形は真言宗開祖の空海が晩年頃に編み出したと言われ、その創作から日本独自の形として受容され三五〇年を経た形が本作であることを証言してくれている。学術的に宝塔を製作順に並べて形状や技術の変化を追うような比較作業をおこなう際には本作は必ず用いられ、基準作としての役割を果たす。また、天満宮が現在と同様に確実に存在したことを証する最古の資料でもあり、こうした歴史的価値を内包した際立った輝きを保持する宝物といえるだろう。



願主の願いから伝わるもの

塔身後面に施された陰刻銘は次のように打ち出されている。



奉鑄

一尺三寸金銅塔一基

右意趣者 山陽防州

院分御時 忝為眼代

奉行國務 仍為祈請

太上法皇 現世百年

後生善所 願主季助

奉行哀憐 子孫繁昌

國土豊饒 諸民与樂

於件多寶 當國守護

天神寶前 所安置也

承安二年壬辰二月廿九日

前筑前守從五位下藤原朝臣季助

【注釈】

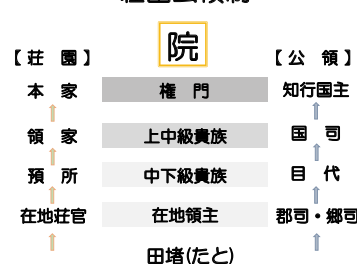
これによれば、この宝塔は承安二年（一二七二）に、当時の周防国国衙に目代として派遣されていた藤原季助が願主となり、後白河法皇の長寿と後生をはじめとして、願主兼ねて奉行衆の子孫繁昌、国土の豊饒、諸民の樂を与にせんことを祈請せんがため、当国守護の防府天満宮の御前に安置するというのである。（防府天満宮神社誌宝物編より）

願主は藤原季助で、当時の周防国の眼代「目代 受領（国守）の代わりに国務をおこなう代官」として京都から赴任した税の収納管理を中心とした行政責任者で、在地における最高実力者として手腕を振るった人物といえる。院政時期の中流貴族（四・五位）たちの任官のあり方として、一期のみ受領（国守）を務めて、その後は公領の目代や荘園の預所で経営にあたる人物が多かった。前筑前守と銘記されていることに着目すると、季助もこうした時代相にのる貴族のひとりで、任地に実際に下向して在地で暮らすことを好んだ経営に長けた実務派の人物であったとみられる。筑前・周防の前後の季助の任官歴は不明だが、京都と筑前（太宰府）と周防を結ぶ縁は道真公をたどるようで面白い。有能な中級貴族は複業をしていたことが知られており、季助もまた、後白河院政を頂点に擁いた天満宮と関わりのある荘園経営を同時に展開していた可能性もあるのではないかと想像したくなる。

いずれにしても藤原季助は、子孫繁昌・国土豊饒…の祈願をこめて周防国を守護する天神に金銅宝塔を奉納した旨が銘記されている。奉納した当時は平清盛が太政大臣となって政権基盤が安定し始めた時勢であったが、その先の激動の時代の流れを知る現代の私達から見ると季助の生涯がどのようなものであったか心配な気持ちになる。季助は世の中の変動ぶりを機敏に察知し、蓄財を投資して国府交易の取引きで宝塔を入手し、当国守護の天神宝前に後白河院政下の平穩無事を祈念したのかもしれない。国府工房が得意とした鋳造技術を活用した可能性もあり、そうなれば地元関係者の熱意も本作に含み込まれている。天神さまへの奉納品には人々の願いや想いが込められおり、それだけに、その時代の実相が直に伝わってくる。

金銅宝塔もまた、工芸品としての素晴らしさもさることながら、八五〇年前の国府のまちに暮らした人々の息づかいも感じることができ、魅力的な文化財である。

荘園公領制



御神忌千百一十五年式年大祭記念事業進捗状況

社殿塗替之工事完了

社殿塗替え工事は本年四月より九月末まで約半年の期間で実施。楼門をはじめ御築地堀・回廊・御神庫・太鼓楼・紅梅の塔・手水舎を塗替えました。

尚、太鼓樓の腐食部分改修工事並に御神庫向拝柱補強工事については(有)川口塗装店様に御奉納頂きました。有難うございました。

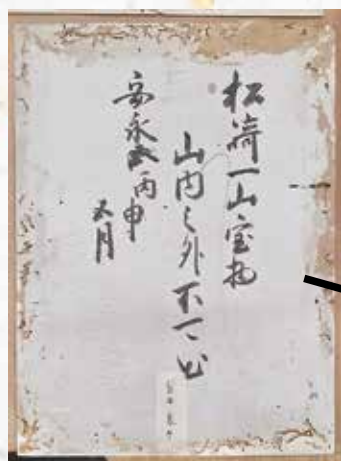
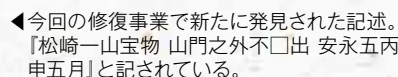


▲美しく塗り替えられた楼門

手鑑修復完了

防府天満宮では御神忌八百年式年大祭り百年ごとに平成十四年の千百年式年大祭に至るまで手鑑を奉納して参りました。手鑑は各界を代表する著名な方々の書画作品を集めて帖に仕立てたもので、大切な宝物として受け継いでおります。

八百年、九百年、千年式年大祭の際に奉納された手鑑は経年劣化により、綴じ目の解れなどが進んでおり、(株)岡墨光堂へ依頼



▲修復され、返ってきた手鑑。
左から800年、900年、1000年大祭手鑑。

し修復。その中で八百年祭手鑑では表紙の

裂地を張り込んだ台紙の裏面に「持ち出してはいけない安永五年（一七七六）」の記述があり新たな発見となりました。しかしなぜ見えないところに裏書をする必要があったのか？当時の方の遊び心だったのか？もしくはタイムカプセルだったのか？その意図は、わからない。今回の修復の情報を裏書に書き加えたタイムカプセルに託しました。

阿里山檜製賽錢箱返礼

嘉義県知事官邸へ阿里山檜賽銭箱奉納のお礼の為、丸久(株)田中社長と宮司が赴きました。宮司から翁知事と田中社長へ記念品が贈呈され、嘉義県と防府市及び当宮の更なる絆を深めました。



「干支の御柱」を御奉納頂いているチェーンソー彫刻家の林隆雄氏が7月にアメリカで行われたチェーンソーアートの世界大会「USオープン」で見事9年ぶり5度目の優勝!

林さんは「ここ最近では優秀な若手もたくさん参加するようになり、審査の流れが変わる中、もうやめようかなと思っていたが、優勝できたのは天神様のお陰です(笑)」とお礼参りに来られました。



◀令和七年の「干支の御柱」



▲優勝作品「SAMURAI CAT」と林氏。

本年7月下旬、米国ワシントン州競技会場にて

Congratulation!

今年のテーマは「内に秘めた力」。林さんは5種類のチェーンソーを駆使して、小さな猫に秘められた侍魂を表現されました。

ひたぶる

当宮には、「防長海軍忠魂碑」「嗚呼海軍少年電信兵之碑」「防飛二期生の碑」「あま予科練」四基の慰霊碑がある。

ここ防府は戦中、防府海軍通信学校や帝国陸軍航空部隊の配置、また防府陸軍飛行場が開設されるなど縁ある慰霊碑が建立された。

中でも、防長海軍忠魂碑は戦後の混乱と進駐軍の命令により昭和二十年に破壊され埋没隠蔽された。しかし、敗戦復興の中、武光一氏(元海軍少将・初代防府市長・防府天満宮大宮司家)ら有志によ

りこれを掘り起こし繋ぎ合わせて修復再建し遺族会を発足。以来毎年5月下旬に慰霊祭を斎行してきた。奉納少年剣道大会も開催され少年剣士も多数参加。未来を担う子供たちにも英霊に対する感謝と平和への「祈り」を伝えている。

権禰宜 村松 大樹

ご結婚おめでとう

お二人の末永いお幸せをお祈り致します

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|---------|-------|----------|-------|-----------|--------|-----------|-------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|---------|-------|---------|------|----------|-----------------|---------|-----------|
| 12月20日 | 福田 崇・翔子 | 12月7日 | 稲田 裕人・晴香 | 12月6日 | 吉本 昌矢・紗也加 | 11月30日 | 品川 将行・万里絵 | 11月2日 | 栗田 光希・那々 | 11月1日 | 長澤 智行・夏華 | 10月5日 | 鳴尾 裕貴・里奈 | 7月26日 | 田村 雄・理紗 | 7月12日 | 深澤 航・潤子 | 6月8日 | 平井 貴志・貴恵 | 令和7年(神社奉式分/敬称略) | 河村 明・聡美 | 藤井 朗大・妃奈乃 |
|--------|---------|-------|----------|-------|-----------|--------|-----------|-------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|---------|-------|---------|------|----------|-----------------|---------|-----------|



※神前結婚式のお申込みは随時受付けておりますので、社務所へお問い合わせ下さい。(TEL0835-23-7700)

御誕辰祭

(天神様の誕生日をお祝いする祭)



▲祭りのフィナーレ「大花火大会」



▲大石段を照らす「万灯の夕べ」



▲市内外よりご協賛いただいた「献灯ボンボリ」

日誌抄

(令和七年六月〜十二月)

毎月1日、15日、25日は月次祭

毎月1日は朝日詣り(朝粥会)
毎月25日は天神市(縁日)・祖霊殿月次祭神道家まほろばかふえ
どぶろく(濁り酒)奉納

5月25日 能離子方大倉正之助氏来宮
6月2日 梅さきり敬神婦人会・双葉幼稚園保育園奉仕
責任役員会
5日 中国地区女子神職会正式参拝並びに記念講話司講師
敬神婦人会七夕飾り奉納奉仕

17・28日 京都府神社本教15名様正式参拝
七夕まつり竹まわりワックショッパ於大専坊
21日 青年部若梅会総会・正式参拝
22日 松崎小学校六年生大専坊授業
23日 総代会・正式参拝
24日 七夕まつり実行委員会傘玉作成
25日 賽銭箱奉納御礼の為台湾嘉義県へ
28日 夏越神事・大祓式、御田植祭、摘除祈願祭、ほうふ外郎本舗奉納
30日 「ほうふ水無月」160食無料配布

7月1〜7日 七夕まつり
笹飾り短冊頒布、光の斎庭(傘玉アート、アンブレラスカイ)、七夕
夕笹飾り奉納(多々良幼稚園・松崎幼稚園・瑞祥幼稚園・佐渡幼稚園
・松崎小放課後子ども教室)、幸せ旅ほうふ、エンカルパンブー
・松崎小放課後子ども教室、幸せ旅ほうふ、エンカルパンブー
七夕まつり実行委員会傘玉作成

七夕まつり竹まわりワックショッパ於大専坊
21日 青年部若梅会総会・正式参拝
22日 松崎小学校六年生大専坊授業
23日 総代会・正式参拝
24日 七夕まつり実行委員会傘玉作成
25日 賽銭箱奉納御礼の為台湾嘉義県へ
28日 夏越神事・大祓式、御田植祭、摘除祈願祭、ほうふ外郎本舗奉納
30日 「ほうふ水無月」160食無料配布

7月1〜7日 七夕まつり
笹飾り短冊頒布、光の斎庭(傘玉アート、アンブレラスカイ)、七夕
夕笹飾り奉納(多々良幼稚園・松崎幼稚園・瑞祥幼稚園・佐渡幼稚園
・松崎小放課後子ども教室)、幸せ旅ほうふ、エンカルパンブー
・松崎小放課後子ども教室、幸せ旅ほうふ、エンカルパンブー
七夕まつり実行委員会傘玉作成

七夕まつり竹まわりワックショッパ於大専坊
21日 青年部若梅会総会・正式参拝
22日 松崎小学校六年生大専坊授業
23日 総代会・正式参拝
24日 七夕まつり実行委員会傘玉作成
25日 賽銭箱奉納御礼の為台湾嘉義県へ
28日 夏越神事・大祓式、御田植祭、摘除祈願祭、ほうふ外郎本舗奉納
30日 「ほうふ水無月」160食無料配布

七夕まつり竹まわりワックショッパ於大専坊
21日 青年部若梅会総会・正式参拝
22日 松崎小学校六年生大専坊授業
23日 総代会・正式参拝
24日 七夕まつり実行委員会傘玉作成
25日 賽銭箱奉納御礼の為台湾嘉義県へ
28日 夏越神事・大祓式、御田植祭、摘除祈願祭、ほうふ外郎本舗奉納
30日 「ほうふ水無月」160食無料配布

七夕まつり竹まわりワックショッパ於大専坊
21日 青年部若梅会総会・正式参拝
22日 松崎小学校六年生大専坊授業
23日 総代会・正式参拝
24日 七夕まつり実行委員会傘玉作成
25日 賽銭箱奉納御礼の為台湾嘉義県へ
28日 夏越神事・大祓式、御田植祭、摘除祈願祭、ほうふ外郎本舗奉納
30日 「ほうふ水無月」160食無料配布

七夕まつり竹まわりワックショッパ於大専坊
21日 青年部若梅会総会・正式参拝
22日 松崎小学校六年生大専坊授業
23日 総代会・正式参拝
24日 七夕まつり実行委員会傘玉作成
25日 賽銭箱奉納御礼の為台湾嘉義県へ
28日 夏越神事・大祓式、御田植祭、摘除祈願祭、ほうふ外郎本舗奉納
30日 「ほうふ水無月」160食無料配布

七夕まつり竹まわりワックショッパ於大専坊
21日 青年部若梅会総会・正式参拝
22日 松崎小学校六年生大専坊授業
23日 総代会・正式参拝
24日 七夕まつり実行委員会傘玉作成
25日 賽銭箱奉納御礼の為台湾嘉義県へ
28日 夏越神事・大祓式、御田植祭、摘除祈願祭、ほうふ外郎本舗奉納
30日 「ほうふ水無月」160食無料配布

七夕まつり竹まわりワックショッパ於大専坊
21日 青年部若梅会総会・正式参拝
22日 松崎小学校六年生大専坊授業
23日 総代会・正式参拝
24日 七夕まつり実行委員会傘玉作成
25日 賽銭箱奉納御礼の為台湾嘉義県へ
28日 夏越神事・大祓式、御田植祭、摘除祈願祭、ほうふ外郎本舗奉納
30日 「ほうふ水無月」160食無料配布

七夕まつり竹まわりワックショッパ於大専坊
21日 青年部若梅会総会・正式参拝
22日 松崎小学校六年生大専坊授業
23日 総代会・正式参拝
24日 七夕まつり実行委員会傘玉作成
25日 賽銭箱奉納御礼の為台湾嘉義県へ
28日 夏越神事・大祓式、御田植祭、摘除祈願祭、ほうふ外郎本舗奉納
30日 「ほうふ水無月」160食無料配布

七夕まつり竹まわりワックショッパ於大専坊
21日 青年部若梅会総会・正式参拝
22日 松崎小学校六年生大専坊授業
23日 総代会・正式参拝
24日 七夕まつり実行委員会傘玉作成
25日 賽銭箱奉納御礼の為台湾嘉義県へ
28日 夏越神事・大祓式、御田植祭、摘除祈願祭、ほうふ外郎本舗奉納
30日 「ほうふ水無月」160食無料配布

七夕まつり竹まわりワックショッパ於大専坊
21日 青年部若梅会総会・正式参拝
22日 松崎小学校六年生大専坊授業
23日 総代会・正式参拝
24日 七夕まつり実行委員会傘玉作成
25日 賽銭箱奉納御礼の為台湾嘉義県へ
28日 夏越神事・大祓式、御田植祭、摘除祈願祭、ほうふ外郎本舗奉納
30日 「ほうふ水無月」160食無料配布

七夕まつり竹まわりワックショッパ於大専坊
21日 青年部若梅会総会・正式参拝
22日 松崎小学校六年生大専坊授業
23日 総代会・正式参拝
24日 七夕まつり実行委員会傘玉作成
25日 賽銭箱奉納御礼の為台湾嘉義県へ
28日 夏越神事・大祓式、御田植祭、摘除祈願祭、ほうふ外郎本舗奉納
30日 「ほうふ水無月」160食無料配布

七夕まつり竹まわりワックショッパ於大専坊
21日 青年部若梅会総会・正式参拝
22日 松崎小学校六年生大専坊授業
23日 総代会・正式参拝
24日 七夕まつり実行委員会傘玉作成
25日 賽銭箱奉納御礼の為台湾嘉義県へ
28日 夏越神事・大祓式、御田植祭、摘除祈願祭、ほうふ外郎本舗奉納
30日 「ほうふ水無月」160食無料配布

七夕まつり竹まわりワックショッパ於大専坊
21日 青年部若梅会総会・正式参拝
22日 松崎小学校六年生大専坊授業
23日 総代会・正式参拝
24日 七夕まつり実行委員会傘玉作成
25日 賽銭箱奉納御礼の為台湾嘉義県へ
28日 夏越神事・大祓式、御田植祭、摘除祈願祭、ほうふ外郎本舗奉納
30日 「ほうふ水無月」160食無料配布

七夕まつり竹まわりワックショッパ於大専坊
21日 青年部若梅会総会・正式参拝
22日 松崎小学校六年生大専坊授業
23日 総代会・正式参拝
24日 七夕まつり実行委員会傘玉作成
25日 賽銭箱奉納御礼の為台湾嘉義県へ
28日 夏越神事・大祓式、御田植祭、摘除祈願祭、ほうふ外郎本舗奉納
30日 「ほうふ水無月」160食無料配布

七夕まつり竹まわりワックショッパ於大専坊
21日 青年部若梅会総会・正式参拝
22日 松崎小学校六年生大専坊授業
23日 総代会・正式参拝
24日 七夕まつり実行委員会傘玉作成
25日 賽銭箱奉納御礼の為台湾嘉義県へ
28日 夏越神事・大祓式、御田植祭、摘除祈願祭、ほうふ外郎本舗奉納
30日 「ほうふ水無月」160食無料配布

七夕まつり

では今年新たに竹まわりを
使った吹き流しが登場。ま
た、竹に親しんでもらおうとエシカルバンブー(株)様
のご協力により講師の田中利雄様をお迎えし直径20cmの
竹まわりワックショッパも開催。



▲竹まわり吹き流し
写真提供/ほうふ日報

天神様から「幸せます」

※幸せますは山口の方言で「ありがたい」「嬉しく思う」との意味があります。

清掃他奉仕

「ご奉仕ありがとうございました。」

7月6・7日

7月19日

8月6日

10月1日

10月1日他

11月2日

11月23日

毎月25日

6月30日

8月28日

10月7日

10月9日

10月13日

10月27日

10月29日

12月5日

「ご奉納ありがとうございました。」

どぶろく(濁り酒) どぶろくカフェみづは様
和菓子「ほうふ水無月」一六〇食(配布)
(有)ほうふ外郎本舗様

木彫り猫像 林隆雄様
山口茶(うかる茶) JA山口県宇部統括本部様
台湾米「八田香り米」70キロ (株)丸久様
新米60キロ 浅原セツコ様
ミネラル笑顔米15キロ (有)スナハラ様
幸せますコシヒカリ90キロ (株)丸久様
干支の御柱(午) 林隆雄様

マツダ防府工場 松崎佐波地区子供会約400名様
マツダ防府工場、防府商工高校、
ブリヂストン防府工場、誠英高校様
松崎地区老人クラブ様
高川学園サッカー部様
勝間の浦を守る会
マツダ防府工場様

（御神幸祭の無事成功を祈る祭）

花神子役
脇 花さん



◀右からブラジル・シンガポール・フィリピン
(2名)出身者。市内で就労している。

[illegible]

宜しくお願い致します

令和七年九月一日付
令和七年九月六日付

を本年より（十一月第三土曜日）齋

行。昨年、御旅所「勝間の浦（浜殿）」が式年大祭記念事業で改修され、道真公の荒魂をお祀りする「一本松神社」が再建されました。御神幸祭の幟立てを行い、この度結成された「勝間の浦を守る会」の皆様も参列頂きました。



▲勝間の浦を守る会は、御神幸祭の諸準備をはじめ御旅所の清掃奉仕活動を地元住民で行い、「菅公御着船の地」を大切に継承しようと発足。

こころ新たに 年の始は天神様へ

初詣 のご案内

防府天満宮は12月25日からお正月

旧年の感謝を捧げるとともに、
新年の幸せを願ひ
天神様へご参拝頂きますよう
ご案内申し上げます。



令和8年 新春の祭事行事

・予祝詣

令和七年十二月二十五日～三十一日

お正月の破魔矢・縁起物等の頒布致しております。

・歳旦祭

一月一日 午前三時より

・書初め・梅茶接待(無料) 於参集殿

一月一日十三時～十六時
二日～三日両日共九時～十六時

・天神おんな神輿写真コンテスト於参集殿

一月一日～八日 九時～十六時

・新始式

一月五日午後三時より

・七草粥の会

於参集殿
一月七日 午前六時三十分より

・貞宮遙拜式

一月十一日 午前十時より

・弓始式

一月十二日 午後一時より

・節分祭牛替神事 二月一日～二日

・梅まつり 二月十五日～三月一日

・人形感謝祭 三月一日

人形預かり期間 二月十一日～二十八日
人形里親探し 三月一日～五日

※節分祭牛替神事・梅まつりは同封のチラシをご覧ください。

第三回さくら咲まつり

三月二十二日～四月五日

・食フエス

於天神山公園大駐車場

三月二十八日～二十九日

防府天満宮
公式YouTube
チャンネル開設



初公開！空から見つめた1,100年の歴史



YouTube

神事行事等を動画で
配信いたしますので、
チャンネル登録をお願いします。

AIさんミニライブ &
ドローンショー
in 防府天満宮
二月四日開催!!
※詳細は一月二日以降ホームページをご覧ください。

御神忌千百二十五年

式年大祭記念

【伝統工芸・現代美術工芸
奉納作品】作品展

令和七年十二月二十五日～

令和八年一月十五日

九時～十六時 於 歴史館

特別ご朱印のご案内
(切り絵朱印)

一月一日より頒布
——二五枚限定——

令和9年1125年式年大祭奉祝



初穂料 2,000円

※初穂料は式年大祭奉祝金として納めさせていただきます

さかたり第116号
令和7年12月1日発行
発行所 防府天満宮社務所

〒747-0029
山口県防府市松崎町14-1
TEL 0835-23-7700
FAX 0835-25-0001



防府天満宮

検索

YouTube

facebook

X (旧 Twitter)

Instagram